

## シンポジウム

「健やかに子どもが育つ安全な環境を作る--- 傷害予防の視点から -----」

1. 主 催 日本学術会議 臨床医学委員会 出生・発達分科会
2. 共 催 日本小児科学会、日本小児保健協会、日本小児科医会、日本医歯薬アカデミー
3. 日 時 平成20年7月23日(水) 14:00~16:30
4. 場 所 日本学術会議 講堂
5. 次 第

### (1) 開催趣旨

傷害は、日々、子どもたちに健康被害をもたらしており、たいへん重要な健康問題となっている。傷害は治療よりも予防を優先すべきとされているが、今までサイエンスの検討課題として予防が取り上げられたことはなかった。今回の企画は、日本で初めて、医学、工学、心理学、行政などの連携を考えるシンポジウムとしてたいへんユニークである。WHOの傷害予防部門の10ヵ年計画の課題となっており、わが国においてこの分野を確立することは国際貢献の点からも期待される。

### (2) プログラム

#### 1) 開会の挨拶

唐木 英明 (日本学術会議第二部部長)

#### 2) 会長挨拶

金澤 一郎 (日本学術会議会長)

#### 座 長

五十嵐 隆 (日本学術会議会員、同出生・発達分科会委員長)

水田 祥代 (日本学術会議会員、同出生・発達分科会副委員長)

#### 3) 第一部

##### ① 「子どもの事故による傷害の現状と予防戦略」

山中 龍宏 (日本学術会議連携会員、緑園こどもクリニック院長)

##### ② 「消費者・生活者の視点に立った行政への転換」

内閣府国民生活局 (演者未定)

- ③「国民生活センター危害情報システムの現状と課題」  
島野 康（国民生活センター理事）

#### 4) 第二部

- ①「診療現場の事例提示」  
山中 龍宏（日本学術会議連携会員、緑園こどもクリニック院長）
- ②「傷害予防のための工学的アプローチ」  
西田 佳史（産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター人間行動理解チーム長）
- ③「学校管理下の傷害の現状」  
杉本 裕（日本スポーツ振興センター健康安全部課長）
- ④「傷害事例から因果関係の解析」  
木村 陽一（産業技術総合研究所サービス工学研究センター大規模データモデリング研究チーム長）
- ⑤「傷害予防に対する意識・行動変容」  
掛札 逸美（産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター研究員）

#### 6. 申し込み等について

事前の申し込みは不要です。当日先着順で定員は300名です。